

令和4年12月15日発行 鷹山宇一記念美術館友の会

〒039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94 七戸町立鷹山宇一記念美術館内

TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860 e-mail info@takayamamuseum.jp http://www.takayamamuseum.jp/



▲ 鷹山宇一 「湖」 1962年 キャンバス・油彩

忘れえぬ人 III

美術作品が作者の手元を離れてからたどる経歴を「来歴」と言う。人間よりも長生きな作品たちなので、流れゆく時の中で持ち主が代わることは珍しくない。

「湖」のかつての所有者は、当美術館設立当初からのメンバーのお一人で、美術はもとより、演劇、能楽鑑賞なども楽しみ、自らも謡(うたい)を嗜まれたりと、いわゆる「文化人」であられた。ある日、銀座の画廊が所有する鷹山宇一の油彩画2点の写真をお持ちになり、どちらかを個人で購入したいとのこと相談に見えられた。もちろん、購入予算のないこの美術館の展示作品として、である。いずれも収蔵品にはない傾向の、美術館の壁に飾るにふさわしい、欲しい作品である。一つは古くからの良馬の産地・七戸らしい「馬」をモチーフにした作品で、氏の家系は牧場経営をされていたこともあり、こちらを選ばれるのかな…と思っていた。が、なんとも詩情あふれる白鳥を描いたこの「湖」をお買い求めになった。「馬はこの美術館にも何点かあるから、こっちがいいでしょ。」そうおっしゃって優しく微笑まれた。

朝霧にかすむ湖畔の柔らかな緑の中に、二羽の白鳥が向き合い、優美な首で「♥」をつくっている「湖」。子どもたちにも大人気の作品で、鷹山賞児童作品展で多くの小中学生が訪れるこの季節、私はいつも展示させていただいている。

氏は、ひとつひとつに自分なりの信念、哲学をお持ちでいらしたが、それは常に正当であられた。穏やかに、にこやかに、そして読書家で、事務室でもコーヒーを飲みながら活字を追っている姿が思い出される。いつもこの美術館とスタッフのことをお心にかけてくださっていた方であった。

鷹山美術館に収められている作品、そのほとんどに、もれなく「思い出」がついてくる。絵画は温度湿度など適切な管理がなされるほどに、何百年もの歳月を生き続ける。それは、アーティスト自身はもちろん、かつての主たちの人生や人となり、「心」も一緒に生き続けるということ。これらを丸ごと後世に伝えバトンを渡す…それが遺された私たちの大切な使命だと思っている。

(副館長・大沢田亜希子)

友の会前会長

盛田駿造氏

ご逝去

会長 下山恭美子



第2代会長
故 盛田駿造氏

謹んで前会長盛田駿造様のご逝去に哀悼の誠を捧げます。
駿造さん、親しみを込めていつも呼ばせて頂いている呼び方で書かせて頂きます。
11月1日、事務局長より電話で訃報を知らされました。「悲しいお知らせです。10月28日に：」悲痛なその言葉の内容は、本当に信じられないものでした。十和田市民文化祭で謡曲をご披露するための練習を重ねておられるはずでしたのに：
鷹山宇一先生のご長女、ひばり館長率いる『小さな町の小さな美術館』。宇一先生の望外な作品群を収蔵・展示し、感動を分け与えて下さるだけではなく、美術に関心を持ち、

芸術を愛する心を育てることをコンセプトとしている美術館の活動サポート的な立場で平成6年に設立された「友の会」。
その初代山本洋一会長から平成18年2代目会長として就任された盛田駿造会長でした。それまで担当していた美術館財団の監事と友の会事務局長・兼会計の職からの抜擢。以来10年間、私たち「友の会の顔」として適切英断をなさる柔和な笑顔が浮かびます。それもその筈、東京で学んでいた大学生時代から、いいえ、ずっとそれ以前から、美術に関心を持ち、講演会、講習会、美術館など様々な施設での展覧会を積極的に廻って知識や感性を磨いたと伺っております。そんな豊富なお力・アイディアをふんだんに発揮され、いろいろな魅力あふれる事業を計画し、友の会会員増強にも寄与されました。
その一つが小川敏雄先生を講師とする「油絵教室」。その後「七彩色」と名称を変え、奥様・典子先生と共に育て上げたサークルで、会員からは描くことだけではない多くのことを学び合えたという感謝の言葉が会報にも寄せられました。
また、国内のみならず海外への研修旅行を提案され実現、率先してご参加されました。
第2回海外研修旅行で20年来の寒波到来と騒がれたイタリア旅行にご参加された際、ヴェネチアで奥様が購入された大型のピノキオ人形を大切に背負って旅行を続けられたお姿、奥様の手を取られて歩かれた夫唱婦随の美しいシルエツトが、今でも目に焼き付いています。また、研修旅行にご参加なさらない時でも

駅での送迎を必ず笑顔でなさり、その、手を振られるお姿は誰しもが真似できない尊い行為だと感服し、今でも忘れることが出来ません。また、宇一先生の「生誕百周年記念祭」や「友の会設立二〇周年記念事業」などを始めとする数々の行事を立派に成し遂げられ、会の繁栄に大いなる足跡を残されました。
生きとし生ける者は、何時か黄泉の国に行かれるとは言え、まだまだご指導ご援助を頂かなければならないと思っていた矢先、偉大な方を失ったことは友の会にとつては大いなる損失であり、後を継ぐ浅学非才の我が身には心細く、今更ながら悔しい気持ちでいっぱいです。
でも今頃は彼の国で、生前から交流のあった宇一先生と手に手を取り合い笑顔でお互いのご活躍を称えあっておられることと信じたいと思っています。
駿造さんのこれまでのご活躍に感謝しながらご冥福を心よりお祈り申し上げます。拙文を閉じます。



七彩色10周年記念展(平成21年7月七戸町・柏葉館で開催)。現在も活動しており、会員募集中です。

鷹山宇一先生誕

一〇〇周年に寄せて

友の会会長 盛田駿造

二〇世紀最大の宗教画家と言われているジョルジュ・ルオーと親交のあった福島繁太郎は、鷹山宇一について、日本における本格的なシュールレアリスムの魁であると言っております。

鷹山先生自身も「ぼくは、若いころはシュールの絵を描きました。シュールは夢幻的な具象ですよ。(中略) ぼくの絵の系列は、シュールでしょうね。」と語っています。

(中略)

展示されている鷹山先生の絵を前にして、いつも感ずるのは「静謐」と「癒し」であり、心の安らぎであります。人間の心のうちには食欲、瞋恚(しんい)、愚癡(ぐち)などの欲望があります。これらを如何にして鎮めるかは、人間の品性にかかわることです。美には、秀でた絵画には、それと真摯に対峙する時、これらの欲望を鎮める力があります。人の心のうちに棲む鬼を押さえ込め込む力があるのです。(以下略)

【会報第53号鷹山宇一先生誕一〇〇周年記念号掲載の会長挨拶より】

友の会の理念は、「美術館あつての友の会」であり、又独立採算制であることの利点を十分に活かし、美術館のため、会員のためになる事業、行事を行って参りました。それには一円たりとも無駄遣いをしないことです。(以下略)

【会報第83号会長退任挨拶より】

第21回鷹山賞児童作品展

会期：11/27(日)～1/22(日)

今年も「鷹山賞児童作品展」が始まりました。

今年も県内小学校、中学校合わせて521点もの力作が寄せられ、9月29日、30日に行われた審査会において、入賞25名、入選91名が選出されました。

本展は鷹山宇一の画業を顕彰するとともに、「子どもたちの感性は風土の中で培われる」との精神の下、新しい時代を担う子どもたちに、制作体験とおして豊かな感性を養い、自由な創造の喜びを体験出来ることを願って開催しています。

子どもたちの素直な心、豊かな想像力が画用紙いっぱいになり、私たちの心をほっと暖かくさせてくれる作品ばかりです。

是非、ご家族皆様でご鑑賞下さい。

沢山のご応募ありがとうございました。来年も素敵な作品に出会えることを楽しみにしています。



今年の授賞式も人数を制限し、鷹山賞、七戸町長賞、七戸町議会議長賞、七戸町教育長賞、奨励賞を受賞のみなさんにご出席いただき執り行いました。

11/26(土) 入賞者授賞式



審査員長の濱田進先生(二科会理事)。今年も県内各地から力作が集まりました。

9/29(木)、30(金) 審査会



←入賞者の皆さんには今年も彫刻家・濱田卓二氏(新制作協会会員)制作の副賞を贈呈しました。



【鷹山賞】中学生の部
七崎 結衣「肌寒い朝のシーガルブリッジ」
八戸市立江陽中学校3年



【鷹山賞】小学生の部
昆 眞代「水面の風景」
三沢市立岡三沢小学校6年

鷹山賞児童作品展審査を終えて

例年に比べて出品点数が減少していると感じました。コロナの影響が有るのではないかと案じております。児童の心の発達に影響が及ばない事を願っています。

出品作品全体を通して作品の隅々まで丁寧に描写されている事に安堵しました。この作品においては自分にしか描写表現できない個性豊かな作品が多数ありました。小学生、中学生を通して自分自身が納得ゆくまで時間をかけた作品が出品されていました。以上の事が今回審査を通して感じた特徴です。

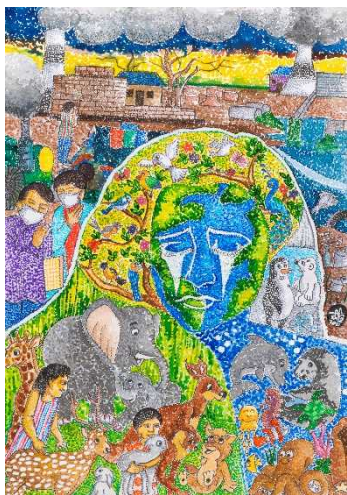
今回展示できなかった作品の中にも描写力、表現力の優れた作品が多数有り、入選点数が今後の課題で有ると考えています。出品して頂きました各学校、指導頂きました先生方、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。 感謝

鷹山賞児童作品展審査員長 濱田進

第21回 JOA 地球環境 世界児童画コンテスト優秀作品展

「第21回鷹山賞児童作品展」では「第21回 JOA 地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展」を併催しております。

一般財団法人 日本品質保証機構 (JQA) と国際認証機関ネットワーク (QNet) が主催する本展覧会は、世界中の7歳から15歳までの子どもたちを対象に、地球環境世界児童画コンテストを1999年より実施しています。今回の募集テーマは「2030年の地球」です。世界各国の子どもたちが様々な思いを絵に込めています。本展では優秀作品に選ばれた70点を紹介します。是非、多くの方に子どもたちからのメッセージを感じていただきたいと思います。



▶「地球環境特別賞」

Mahi Ahnat Maymun (ハングレラデシユニ歳)

「第21回鷹山賞児童作品展」

「第21回 JOA 地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展」

2022年11月27日(日)～2023年1月22日(日)

※月曜休館(但し祝日の場合は開館し翌日休館)

年末年始休館 12/29～1/2

開館時間 10:00～18:00(最終入館 17:30)

入館料 一般 500円、高大生 300円、小中学生無料



▲常設展示「鷹山宇一の世界」もご観覧いただけます。

「黒の譜 戸村春樹展 くかけがえのないもの」 閉幕

10/23(日) 橋本尚恣氏講演会



「黒の譜 戸村春樹展」くかけがえのないもの」が11月13日(日)、無事な会期を終了しました。会期中、青森市在住で、

県内外で活躍している版画家・橋本尚恣さんによる講演会を行いました。銅版画の技法について実演を交えて講演してくださり、難しいメゾチントの技法も橋本さんの楽しいトークとわかりやすい解説で、より深く理解することが出来ました。ご参加いただいた皆様も楽しんで、終始和やかな雰囲気な包まれた講演会になりました。



作品鑑賞に来てくれました!

11月4日(金)に野辺地小学校の4年生、11月29日(火)に七戸小学校の2年生



▲野辺地小学校4年生の皆さん。

と4年生の皆様ですが、作品鑑賞に来てくれました。野辺地小学校の皆さんは「戸村春樹展」を鑑賞し、銅版画の細かな技に驚いた様子で鑑賞していました。七戸小学校の皆さんは「鷹山賞児童作品展」を鑑賞。お友達同士で好きな作品を探しながら鑑賞を楽しんでいる様子に、大変嬉しく思いました。

▲七戸小学校2年生、4年生の皆さん。



令和4年度

美術館あーとくらぶ



当美術館の2階工房で開催する美術館あーとくらぶの活動は12月中旬から本格的に開催する予定です。今回は、2件の出張ワークショップの様子をご紹介します。

令和4年度「町の名人に学ぶ」に参加して



10月4日(木)に七戸小学校で行われた令和4年度「町の名人に学ぶ」に講師として参加しました。対象は3学年28名です。町の名人として今回招かれたのは、「墨遊会」「七戸俳句会」「大日本書芸院 七戸支部書友会」「漢詩と詩吟を学ぶ会」「鷹山宇一記念美術館」です。はじめに全体での講師紹介をした後、各教室に入り授業がスタートです。

美術館は「デコパージュ」でオリジナルのバッグ作りをしました。はじめは私も子供達も緊張気味でしたが、工程が進むにつれ子供達から質問が飛び交う良い空間が生まれました。今回はデコパージュでしたが、ものづくりを通し自分の考えを表現するきっかけになればと思います。

完成した作品を写真に収めていたら、みんなが集まってきたので、最後は完成品を前にパシャリ!!

とても有意義な時間を過ごすことができました。後日、参加してくれた子供達からお礼のお手紙を頂きました。—ありがとうございました—



令和4年度「美術館あーとくらぶ」

1月～3月の予定

1月29日(日) クレパスで絵を描こう

2月26日(日) 七宝焼き

3月19日(日) デコパージュをしよう

を予定しております。同封のワークショップチラシをご覧ください。

こんなブローチにできあがりです。ステキですね。



作成中の様子です。

勿論、終わった後は開催中の鷹山賞児童作品展をゆっくりと鑑賞していました。参加された皆さんありがとうございました。

七宝焼きの道具や釉薬の説明をして、銅板に釉薬をのせました。800～850℃焼成をし、冷めると蝶の羽根の部分が焼き上がります。後は蝶形の台座に焼き上がった銅板をはめ込んで完成です。色とりどりの蝶のブローチができあがりました。作品を友達にプレゼントすると言って大事にしまっ人。早速ブローチを服につけ写真を撮る人など楽しく教室を終えることができました。

第4回文化教室 七宝焼き (一社) 上北地方教育会館主催

12月3日(土)に(一社)上北地方教育会館主催の第4回文化教室を当美術館2階工房で七宝焼きを行いました。鷹山宇一の絵の中に蝶が登場します。先方の希望もあり蝶の形のブローチにしました。



美術館日誌

10月



- 1日(土) 七戸町民入館料無料の日
- 8/1開館記念日の振替
- 友の会会報発送作業
- 戸村春樹展図録納品
- 4日(火) 「町の名人に学ぶ」事業講師として
- 二ノコバージュを実施
- 町立七戸小学校 織川教育普及員
- 5日(水) 自動ドア定期点検
- ナブコシステム
- 6日(木) 戸村春樹展関連事業
- 「銅版画講座」打合せ
- 講師 版画家・橋本尚恣氏
- 電気設備定期点検 佐藤電気
- 7日(金) アール・イー・ピー開発株
- 山崎社長ご来館
- 14日(金) いこいのこぼまんどく
- 12名様ご来館
- 16日(日) 七彩会油絵教室
- 戸村春樹展関連事業
- 「銅版画講座」開催
- 講師 版画家・橋本尚恣氏、受講者14名
- 26日(水) 戸村春樹氏使用プレス機調査①
- 橋本尚恣氏、大沢田副館長、遠藤学芸員、對馬研究員

11月

- 27日(木) 青森放送株佐々木氏、井畑氏ご来館
- 29日(土) 「東北文化の日」無料開館を実施
- 東北文化の日 無料開館を実施
- 10/30
- 1日(火) 県立七戸高等学校美術部生徒・教員11名様ご来館
- 2日(水) 戸村春樹氏使用プレス機調査②
- 中長運送株 中村社長
- 大沢田副館長、織川教育普及員
- 地下タンク清掃、埋設配管漏洩検査
- 県南環境保全センター(株)
- 4日(金) 野辺地町立野辺地小学校 児童・教員39名様ご来館
- 9日(水) (公財)東北障がい者芸術支援機構 阿部事務局長以下3名様ご来館
- 館内視察・打合せ
- 青森放送株、当財団
- 10日(木) 戸村春樹氏使用プレス機運搬
- 中長運送株、大沢田副館長
- 電気設備定期点検 佐藤電気
- 13日(日) 「黒の譜 戸村春樹展」
- かけがえのないもの「最終日」
- 会期中の入館者1,692名
- 七彩会油絵教室
- 15日(火) 博物館実習生受入 19日
- 展示替えのため臨時休館 26日

12月



- 23日(水) 鷹山賞児童作品展展示作業
- 青森スタジオ
- 26日(土) 鷹山賞児童作品展入賞者授賞式
- オープニングセレモニー開催
- 鷹山賞以下奨励賞まで縮小開催
- 27日(日) 「第21回鷹山賞児童作品展」
- 第21回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展 初日
- 1/22
- 29日(火) 町立七戸小学校2学年児童・教員32名様、4学年児童・教員41名様ご来館
- 冬期除雪作業打合せ
- 町観光課 生涯学習課 当財団
- 戸村春樹展借用作品返却
- 八戸市立図書館、遠藤学芸員、織川教育普及員
- 30日(水) 鷹山宇一油彩画受領
- 仙台市/大沢田副館長
- 公用車タイヤ交換
- 3日(土) 上北教育会館10名様ご来館
- 当館WS「七宝焼き」を体験
- 2F工房/織川教育普及員
- 6日(火) 電気設備定期点検 佐藤電気
- 7日(水) 青森県博物館大会出席
- 県立美術館/遠藤学芸員、織川教育普及員

- 令和4年度七戸町文化村美術館等指定管理業務に係る
- モニタリングが実施される
- 2F工房/町生涯学習課

- 10日(土) 鷹山宇一生涯記念日「遊蝶記」
- 消防訓練を実施 終日無料開館
- 11日(日) 七彩会油絵教室
- 13日(火) 令和4年度公の施設の管理受託者監査 役場本庁舎
- 大沢田副館長、成田事務員
- 黒石市文化スポーツ振興課視察
- 新入・若手社員スキルアップ講座 (オンライン)を受講
- 佐々木教育普及員補助、15日
- 16日(金) (株)タミヤ新田氏ご来館、打合せ
- 青森放送(株)、当財団
- 18日(日) 美術資料収集審査委員会を開催
- WS「七宝焼きをしよう」①開催
- 2F工房/織川教育普及員
- 20日(火) 消防用設備等点検 昭和電気(株)
- 22日(木) 友の会会報発送作業
- 29日(木) 年末年始休館
- 1/3

佳き新しい年が一年となりますように



戸村春樹展を見て思うこと

(公社)二科会理事 濱田 進
 (鷹山賞児童絵画展審査員長)

鷹山賞児童絵画展の審査で美術館を訪れたとき、版画家戸村春樹展を見せて頂きました。会場に入るや否や言語や活字で表現できない魂の叫びを受け、作品の前で釘付けにされてしまいました。

二点、三点と進み、「題不明」の作品、あげは蝶にただただ驚嘆する他ありませんでした。版画メゾチント技法で、羽根を休める蝶の息づかい、羽根の微動、次の花を探しているかの表現、又指先で羽根に触れると、鱗粉まで付いてしまいそうな表現。この表現は技術の修練のできるものではないと思います。神の成せる技「神の手」を持った戸村春樹だからできた表現だと言えます。又、あげは蝶は戸村春樹自身ではないかと思



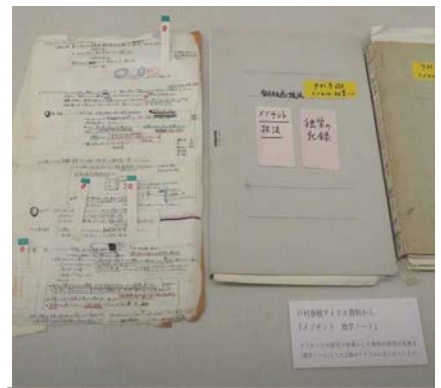
題不明 (1984年) 36.1×23.7

っています。

最後の展示室には、幼少の頃から大学入学までの作品が展示されていて驚きました。何故この時期の展示が必要であるか疑問でしたが、戸村春樹を知る上で不可欠であると気がかされました。物の見方、考え方、表現方法、技術の修練等を画用紙の隅から隅まで丁寧に描写することで身に付けていたのではないのでしょうか。もうすでに版画家戸村春樹が誕生していたと言っても過言ではないと思います。美大時代の石膏ヘルメス像では、形を正確に写しただけでは無く、石膏の素材、質感、重さまでも描写できる表現を修得しています。あげは蝶の原点がもうすでにできている事に気付かされました。



母親が保存してくれた小学校時代の作品の一部。確かな描写と豊かな色彩表現に驚く



長谷川潔の書籍を参考にしたメゾチント技法の独学ノート

母親は版画家戸村春樹をこの頃から見いだし、作品を残したのではと思います。

育児をされているお母さんには、幼い頃からの生育記録(絵、文章、ノート等)を残してあげて下さい。人生で迷った時、それらを見る事で脱出するヒントに成ると思います。戸村春樹も制作活動をする上で、悩み、苦しみを繰り返されたことでしょう。その時、母親が残してくれた作品を見る事で脱出する機会を得て安堵されエネルギーをもらわれたと思うからです。

戸村春樹をもっと知りたく資料等を見ていますと、大学は油絵科で卒業されています。その後メゾチント版画に出会い、誰の手助けも受けず、5ヶ年掛けて、技術、技法を修得されたことと記されています。版画に目覚めた頃はビエンナーレ等に挑戦され、評価を得られていたが、郷里に戻らされてからは、誰からも汚される事なく制作活動に没頭できる生活環境を築かれました。出品回数も減らされ、その事が神秘

性に磨きを掛けられた要因だと考えています。



帰巢 (1987年) メゾチント 20.7×46.3

郷里に帰る決断ができた事、このことが、外界と距離が保たれ、異次元版画家戸村春樹を誕生させたと考えます。

当地の版画家戸村春樹を見い出され、幼少の頃から最晩年までの作品展示をされた鷹山宇一記念美術館に感謝申し上げます。最後に、この美術館で展示を終えるのには無く、一人でも多くの人に戸村春樹の作品を見て欲しい。その一歩である事を願っています。

青森県最東南端の地
小舟渡海岸を訪ねて

三戸郡階上町

八戸市 照井壽一



階上灯台(はしかみとうだい)
初点灯:1959年10月5日、高さ:11m

「青森県最東南端の地、県内で一番早く朝日の昇る場所」という言葉に惹かれて、三戸郡階上町の小舟渡海岸(こみなとかいがん)を訪ねました。

青森県と岩手県の県境に位置するこの海域はウニとアワビの宝庫で、漁業権をめぐる話し合いは難航したようですが、昭和26年に決着。県境付近に沿って東流する小さな川、廿一川河口の陸と海に碑が設けられ海の目印として海中の

岩に「塚」の文字を刻んだそうです。

階上町

は、三戸郡5町1村のなかで海岸線を有する唯一の町で、小舟渡漁港など4つの漁港を中心に獲る漁業から「つくり育てる漁業」への転換に取り組んでいるそうです。



正面左側:青森県、右側:岩手県

小舟渡海岸のシンボル、白色の海の道しるべ階上灯台(はしかみとうだい)が建っている天然の芝生地は、毎年7月下旬に行われる町最大のイベント「はしかみいちご煮まつり」の会場にもなっています。

ちなみに「いちご煮」の名前は、お椀に盛り付けたとき、アワビなどのエキスによって乳白色に濁ったスープに浮かぶ黄金色のウニの姿が朝もやに霞む「野いちご」に似ていることから付けられたそうです。

海岸沿いの遊歩道を潮風に吹かれながら散策。灯台付近の芝生の丘に登り、沖を通る船を眺めながら両手をゆっくりと広げて深呼吸を二度、三度……。渚で遊び、背伸びをして気分爽快、小舟渡海岸の風景から元気を頂いた11月上旬の一日に感謝しました。

参考資料等

○階上町役場ホームページ、階上町散策マップ 編集階上かだる会、その他

新規会員入会お誘いのお願いと

友の会会員登録更新のお願い

令和四年も会員の皆様には、友の会運営に多大なご理解とご協力をいただき、誠に有り難う御座います。

新年も友の会では、鷹山宇一記念美術館の応援と会員の皆様喜んで頂ける研修旅行、講演会等を企画し、微力ながら地域文化の発展に寄与していく所存でございます。尚、更新及び新規入会手続きは、美術館窓口と同封の郵便振替等により随時行っております。

○友の会の事業内容

- ①県内外美術館研修視察旅行(年2〜3回)
- ②海外美術館研修旅行
- ③美術館作品購入基金への協力
- ④鷹山宇一記念美術館ボランティア協力
- ⑤会報の発行
- ⑥その他(美術講演会の開催等)

○一般会員

- 会費 (個人) 年度会費 3千円
- 特典 ①無料入館券3枚。会員証提示により入館料2割引

○特別会員

- 会費 (個人・法人) 年度会費 1万円
- 特典 ①会員証特典に加えて

○賛助会員

- 会費 (個人・法人) 年度会費 2万円
- 特典 ①会員証特典に加えて

- ①本人及び同伴者3名まで無料入館
 - ②新規加入の方に画集1冊贈呈
 - ③特別企画展の都度、招待券を贈呈
- ◇詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

☆ 会費納入について

美術館窓口、郵便振替に加え下記口座からも納入出来ます。

○銀行名 青森銀行 七戸支店
○口座番号 307337
○口座名 鷹山宇一記念美術館友の会 会長 下山恭美子

編集後記

会報第一〇九号をお届けします。本年も友の会会員各位のご協力を頂き会報をお届けすることが出来ました。このことに感謝申し上げます。

来たるべき令和五年卯年、皆様にとって幸多き一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

(照井壽一)